

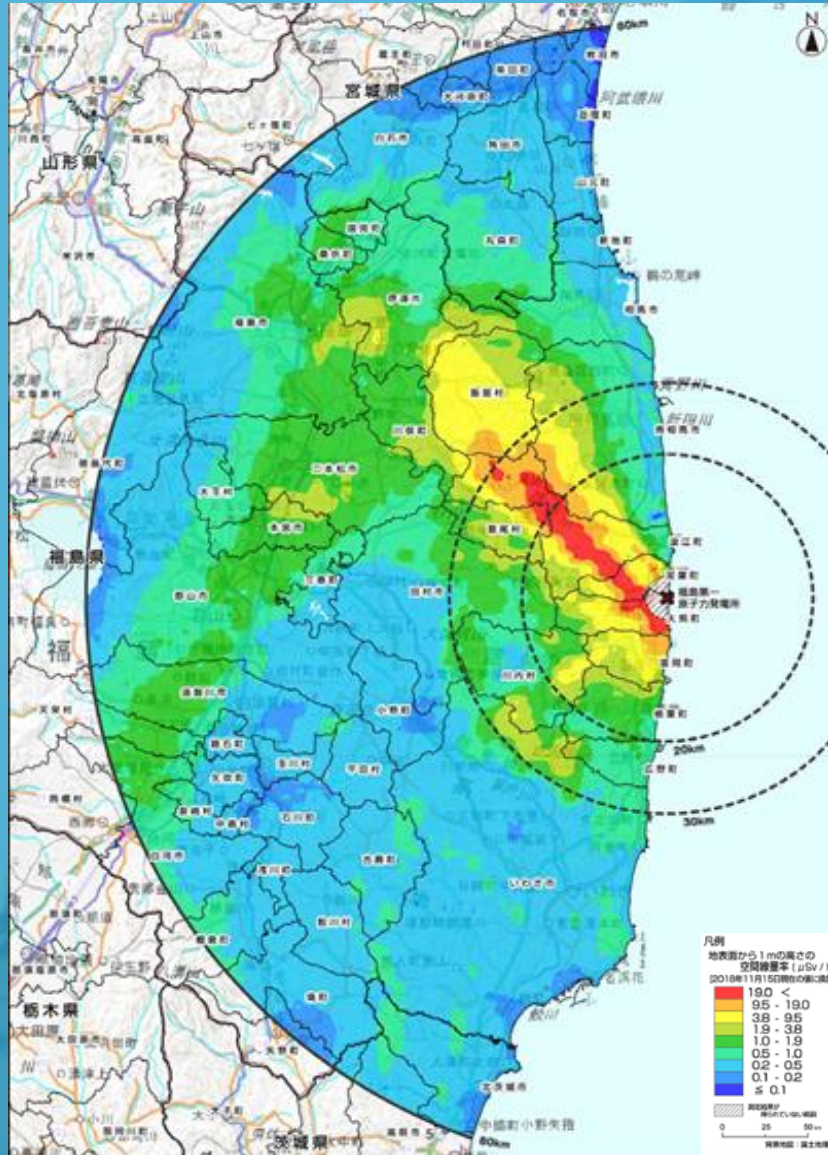
福島県での環境再生と未来志向の取組

環境省 環境再生・資源循環局

2024年3月10日

2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故により

放射性物質による環境の汚染が発生



80km圏内における空間線量率の分布マップ (文部科学省発表 2011.12.16)

避難指示区域の概念図 (区域見直し後)





除染の結果、**大量の除去土壌（じょきよどじょう）**等が発生。これらは県内各地の**仮置場**に置かれたが、復興を進めるため、中間貯蔵施設へ。

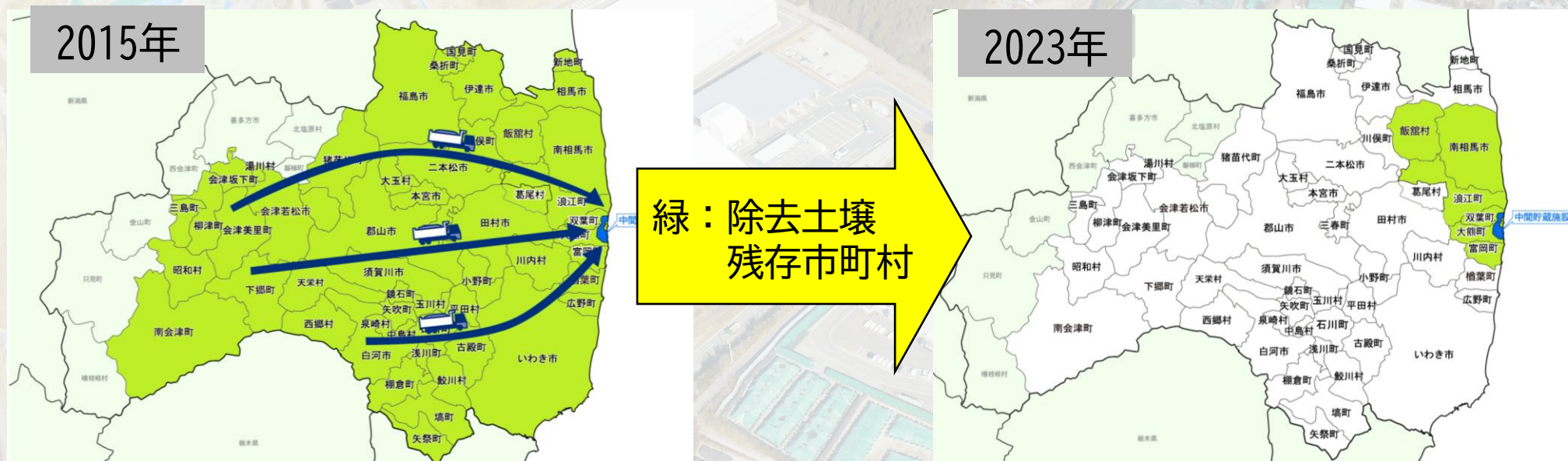


中間貯蔵施設

中間貯蔵施設は、大熊町・双葉町で約1,600haという広大な区域
(渋谷区の広さとほぼ同じ)

除去土壌等の県外最終処分

- 中間貯蔵施設の地権者は、原発事故により避難を余儀なくされた上で、このために**先祖代々受け継ぐ土地・家屋を手放すという苦渋の決断**
- この決断があったからこそ、**中間貯蔵施設の設置が進み、福島全体の復興が大きく進展**（県内各地にあった約1370カ所の除去土壌仮置場 → 現在約170カ所）



- さらに、福島県では原発事故による環境の汚染が国内で最も深刻であり、その影響により、**福島県民には多大な負担も発生**



- **福島県民が既に重過ぎる負担をされていることを踏まえ「30年以内の福島県外での最終処分」**を前提に、福島県内の地元が中間貯蔵施設を受入れ。これは、**法律でも明記された国の責務**であり、果たさなければいけない**大切な約束**

出典：「福島環境再生100人の記憶」（環境省）



2018年7月 ならはCANvasオープン

2019年1月 檜葉町での鳥小屋
(どんと焼き) の復活





2020年8月 道の駅なみえオープン

2020年3月 福島水素エネルギー
研究フィールドオープン





2020年9月 東日本大震災・原子力災害伝承館
オープン

2022年8月 双葉町役場新庁舎の開庁





2019年5月 大熊町役場の町への帰還

2019年9月 大熊町夏祭りの復活



2023年5月 長泥コミュニティセンター竣工式



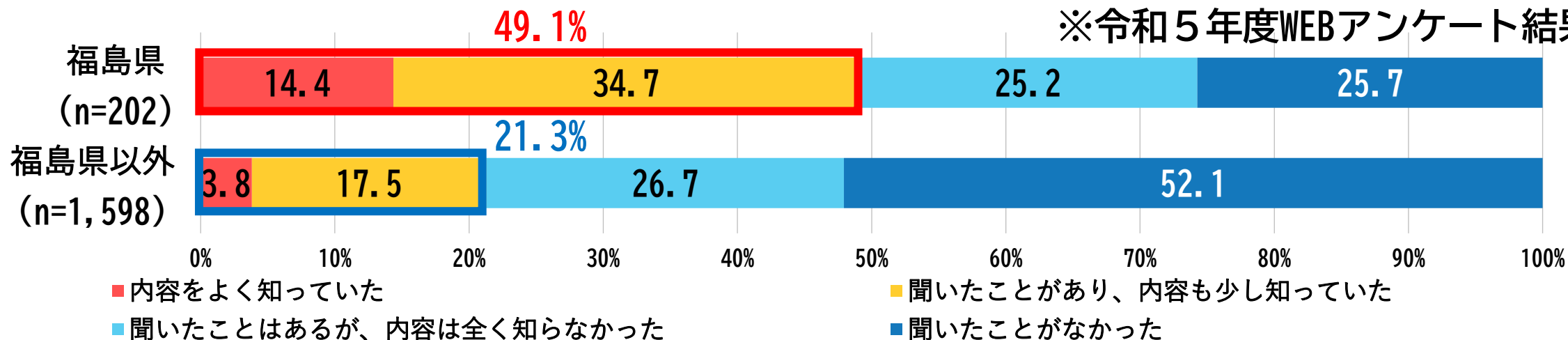
2023年5月 再生利用実証事業現場の水田での苗付け



県外最終処分の方針に関する認知度

福島県内の除去土壌等の県外最終処分この認知度は、県内で約5割、県外で約2割

※令和5年度WEBアンケート結果



福島再生・未来志向プロジェクトの推進

- 30年後（2045年県外最終処分、中間貯蔵施設用地の跡地整備）の未来まで続く、環境省と福島・浜通りとの御縁
- 環境省は、福島・浜通りの30年後の未来の姿を共に見る地域の一員であり地域の未来に向けての役割を有する主体の一つ

2018年8月「福島再生・未来志向プロジェクト」スタート

- ・ 福島復興の姿を県内外に発信
- ・ 浜通り地域をはじめとする福島県の風評払拭 等

2045年（県外最終処分期限）時点の現役世代となる次世代への理解醸成の取組は重要。
このため、全国の若者が復興の現状や福島が抱える課題、福島の魅力について知るためのツアーを若者が企画し開催した。



ツアー参加者による座談会



長泥地区環境再生事業エリア



中間貯蔵施設

若い世代の登録者の多いNewsPicks Brand Designと連携したイベントを開催（現地参加者の約6割が40代以下）
当日参加者のうちアンケート回答者の約8割が、県外最終処分や再生利用への理解が深まったとの回答。



■日程：2023年12月19日（火）18:00～21:10

■登壇者：

～KEYNOTE登壇者～

MODERATOR

木下 斉 氏（一般社団法人エリア・イノベーション・
アライアンス代表理事、内閣府地域活性化伝道師）

SPEAKER

太田 直樹 氏（株式会社New Stories代表、Code for Japan理事）

高橋 大就 氏（一般社団法人「NoMAラボ」代表理事）

和田 智行 氏（株式会社小高ワーカーズベース 代表取締役）

～TALK SESSION登壇者～

MODERATOR

開沼 博 氏（東京大学大学院情報学環 准教授、
東日本大震災・原子力災害伝承館 上級研究員）

SPEAKER

太田 直樹 氏（株式会社New Stories代表、Code for Japan理事）

小山 良太 氏（福島大学 食農学類 農業経営学 教授）

高村 真央 氏（株式会社アルファドライブ

株式会社NewsPicks for Businessイベントunitリーダー・コンテンツエディター）

中野 哲哉（環境省環境再生・資源循環局参事官）

■参加者数：

会場参加者：66名

オンライン参加者：148名

アーカイブ動画配信中



福島の問題について、知らない又は関心のない層、主に若者への情報発信強化
従来のTV・新聞に加えてYouTuberと連携し、SNSを活用した情報発信を実施

YouTuberやネットメディアとの連携



20万回超再生 大人の教養TV@donttellmearai

TOKYO MX連携ツアー
同世代への波及力を期待してZ世代マイクロインフルエンサーやMX番組コメンテーター10名を集めたプレツアーを開催。

福島県の環境再生の状況や除去土壌等の再生利用・福島県外最終処分に向けた取組、環境先進地域を目指した未来志向の取組等について紹介。

新宿御苑「GTFグリーンチャレンジデー」(東京)



■令和5年度における出展事例

- ・ぴあミュージックフェス (東京)
- ・LIVE AZUMA (福島)
- ・「福島、その先の環境へ。」展 (東京)
- ・ふれあいフェスタ2023 (東京)
- ・GTFグリーンチャレンジデー (東京)
- ・ふれあい広場2023 (ラジオ大阪主催) (大阪)
- ・長崎大学学園祭 (長崎) 等

福島県内外の音楽ファンが集まるイベントで福島での環境再生の取組等に関する展示を実施。

ぴあミュージックフェス (東京)



LIVE AZUMA (福島)



G7サミット・COP28 におけるブース展示



G7サミット
(広島)



G7
気候・エネルギー・
環境大臣会合
(札幌)



COP28 (ドバイ)



国際会議等



IAEA総会
(ウィーン)



ICRP訪問
(福島)



スウェーデン使節団訪問 (東京・福島)



IAEA国際会議
(ウィーン)



日英原子力年次対話
(ロンドン)

IAEA専門家会合



第1回専門家会合
(2023年5月、長泥再生利用実証事業エリア)

海外メディア向け現地視察会

2024年2月に開催した海外メディア向け現地視察会では、アメリカ、フランス、スイス、シンガポール、カタールの5カ国から6社6名に参加いただいた。



▲ 中間貯蔵施設での説明と取材の様子

いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』 チャレンジ・アワード

福島に関心のある学生を対象に、福島のこれまでとこれからについてのアイデアや想い、すでに取り組んでいる活動の紹介等についてまとめた作品を募集・表彰・発信

環境大臣賞

- 中学生の部 酒井舜之
住み続けられる故郷・福島を目指して
- 高校生の部 GOALS～学校協働SDGsチャレンジ～
オーガニックコットンで創る福島のミライ



FUKUSHIMA NEXT

福島において環境の視点から未来志向の取組を実施する方々を県内外の様々なメディアで発信することで、その活動を後押し

環境大臣賞

- 谷口 豪樹 (株式会社smile farm 代表取締役)
- 長友 海夢 (株式会社いなびし 代表取締役)



いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』 チャレンジ・アワード

福島に関心のある学生を対象に、福島のこれまでとこれからについてのアイデアや想い、すでに取り組んでいる活動の紹介等についてまとめた作品を募集・表彰・発信

環境大臣賞

- 中学生の部 酒井舜之
住み続けられる故郷・福島を目指して
- 高校生の部 GOALS～学校協働SDGsチャレンジ～
オーガニックコットンで創る福島のミライ



FUKUSHIMA NEXT

福島において環境の視点から未来志向の取組を実施する方々を県内外の様々なメディアで発信することで、その活動を後押し

環境大臣賞

- 谷口 豪樹 (株式会社smile farm 代表取締役)
- 長友 海夢 (株式会社いなびし 代表取締役)

